

令和6年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 相談支援専門員連絡会	日 時	令和 6年 8月 20日(火) 13:30 ~ 15:30
	会 場	伊那市福祉まちづくりセンター	参加者数	23 人
主 テ ー マ	<p>1 講義「サービス等利用計画と個別支援計画の関係と連携」</p> <p>2 新規事業所の紹介</p> <p>3 その他</p>			
	<p>1 について</p> <p>「サービス等利用計画と個別支援計画の関係と連携」 講師:一般社団法人 地の会 理事・アップ☆わ〜く管理者 宮内宏氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の報酬改定によりサービス提供事業所は個別支援計画書を相談支援事業者への交付が義務付けとなった。法改正により一層の意思決定支援を重視。サービス等利用計画等では、情報共有が密にされる事や相談とサビ管の連携により支援がぶれないようにすることが大切。 ・児童は児童発達支援で 5 領域をより明確にした個別支援計画が必要になってきている。支援の 5 領域として「健康・生活」・「運動・感覚」・「認知・行動」・「人間関係・社会性」「言語・コミュニケーション」に分けられるが、お互いに関連するもので重なる部分もある。5 領域を意識することで事業所内の支援が少しずつ家庭や保育所等に広がっていくきっかけづくりとしていく。 ・相談支援専門員の役割は「つながる支援」展開するための地域の責任者 実施することとして地域でネットワークを作り、ニーズや支援の方針等の確認や集約する。各事業所の役割を明確化していく。サービス提供が提供されているか第三者の視点を持って判断を行う。 ・サービス管理責任者の役割は「深める支援」を展開するための事業所の責任者 実施することとして事業所内で会議を開き、必要な支援の検討。本人が目標達成できているか確認の実施。支援の質の向上のためスタッフのスキルアップを図るチームアセスメントの体制の構築。 <p>(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 グループに分かれ、講義を聞いて感じたこと、サービス事業所との連携について話し合う。 ・須高圏域のサービス等利用計画について利用者同意不十分で作成していた新聞記事について情報提供 <p>主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス管理責任者と相談員の連携の大切さがわかった。 ・同じ施設内であれば連携がとりやすいが、外部の事業所であれば、連携が足りないと感じた。 ・兼務の場合、サービス等利用計画と個別支援計画を両方作成しており、混乱してしまう。 ・意思決定支援について、今までと何が変わったのか、どうすればいいのかという部分を聞くことができ奥が深いと感じた。 ・今まで個別支援計画をもらったことがないが、今後はしっかり読み共有していくことが大事。 ・新聞の記事から相談員の不足を感じた。増やすにはどうしていったらいいのか悩ましい部分もある。サービスに繋がらない基本相談が多いと感じている。やって当たり前になりがち。 <p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいびー諏訪 (就労継続支援 B 型) ・yui 訪問看護ステーション (訪問看護) <p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回相談支援専門員連絡会 日時:令和6年10月29日 10:00~12:00 内容:こどもサービス連絡会と合同で実施予定 			
ま と め	<p>個別支援計画の認識を深め、児童の 5 領域について学びの機会となった。 法改正にあたり、自分認識と見識を深め、読み解くことが大事である。</p>			
次 回	<p>第3回 10月29日(火)10:00~</p>			

